

トータルサポートセンターだより



発行：京都府立舞鶴支援学校 地域支援センター トータルサポートセンター（TSC）

〒624-0812 京都府舞鶴市字堀4の1 TEL 0773-78-3133 FAX 0773-78-3135

第2回 特別支援教育合同研修会

テーマ 「適切なアセスメントから支援につなぐ
～子どもの姿から考える～」

今年度の合同研修会は、年間を通して同じテーマを掲げて研修を深めました。第1回は6月に舞鶴市乳幼児教育センター相談員を務めておられる臨床発達心理士の山下浩二先生に御講義いただきました。第2回はその講義を受けた後の各園校の取組や成果と課題等を交流しました。

第2回の研修会は、11月24日（金）に中公民館ホールにおいて、60名以上の方々に参加していただきました。参加された先生方には、8グループに分かれていただき、園から高校まで様々な校種間での交流をもちました。交流では3つのテーマを柱として、①関係機関との連携、②アセスメント、③環境整備について、グループごとに実践していることや今後取り組みたいことを話し合いました。グループ交流の前には、全体会で6月の講義について振り返りました。その振り返りの講義の中で、中舞鶴小学校と青葉中学校の先生方から実践例を御報告いただいたことが好影響を及ぼし、あとに続くグループ交流が活発に行われました。

たくさんの感想をいただきましたので、一部を抜粋して紹介します。



- 園や高校、支援学校と、他の学校の先生と交流することができ、連携の仕方や引継ぎの重要性がよく分かりました。
- グループワークでは、他校種の先生方と話し合いができ、それぞれのライフステージに合わせた役割（保護者への働き掛け等）を確認することができました。取組の報告もとても分かりやすかったです。また、TSCを活用した研修の紹介だったので、他の学校も参考になり、今後も活用が広がると思いました。ありがとうございました。
- 他校や園の様子を聞かせてもらい、連携や保護者へのアプローチを考えさせられました。学校でしっかり生かしていけるようにしていきたいです。保護者への対応も考えていきたいです。
- 同じグループの中に、高校・中学校など、普段関わりのない先生方と交流ができて良かった。
- 幼児期の子どもたちの将来像や道筋がイメージできた。

地域特別支援連携協議会

テーマ 「切れ目ない支援～ステージ間移行における関係機関の連携～」

地域特別支援連携協議会は、舞鶴市の特別支援教育を総合的に推進するため、教育・医療・福祉・労働等の関係機関、PTA等の関係者によって構成された会議で、年2回、舞鶴支援学校において実施しています。

今年度は、「進路」にテーマを絞って開催し、関係諸機関の「進路」に対する意識を共有することができました。

6月の第1回協議会は、「本校の就学について」と「進路希望の実現に向けて」という題名で、舞鶴支援学校より情報提供しました。そのあとに、乳幼児期、就学期の支援状況に関して保健・教育の関係機関から、次いで地域での生活支援の状況について福祉・労働の関係機関から取組報告や情報提供をしていただきました。

1月の第2回協議会は、障害者就業・生活支援センターわかばの中岡健介様から、「つけたい力～希望の進路のために～」という題名で、課題提起をいただきました。健康面や生活力という働く力の基本を土台にしたうえで、働く意欲となる働く理由を考えること、社会のルールを知ること、誰かに相談する力を付けることが大切であるということ、話していただきました。そのあとに、「つけたい力～自立と社会参加に向けて～」という内容で、参加いただいた各分野の委員から、各機関における支援状況等について話し合っていました。これからも、各関係機関の支援状況や課題を共有し、連携を深めることで切れ目ない支援の充実を図っていきます。



令和5年度 T S C 教育相談の中間報告

今年度の教育相談は、2月末現在で延べ件数 186 件でした。そのうちの新規相談は、126 件でした。内訳は以下のとおりです。

新規相談の校種別件数

就学前	小学校	中学校	高等学校	その他
4	44	15	1	62

新規教育相談の主たる相談内容の件数

学習	生活・コミュニケーション	就学・進路	研修	その他
45	16	0	3	62

相談の形態は、延べ件数 186 件のうち、巡回相談が 182 件で、来校相談が 4 件でした。

「その他」は、『にじいろ個別支援システム』と『夏季教育相談』の件数です。

巡回相談では、本校の自立活動専任教員のほかに、通級による指導の担当教員、こども発達支援施設の臨床心理士、府専門家チーム委員の方々に同行していただいて、様々な専門的な立場から助言を行いました。今後も、ニーズに応じて各関係機関と協働しながら支援活動を行っていきます。次年度も引き続き、御理解と御協力をよろしくお願い致します。